



“ひとつだけ”の輝きで…

スクール・カウンセラーの池上先生が「生徒の表情がとてもよくなりましたね」と話されていました。新しい学年（学級）がスタートして1か月。「こんなクラスになりたい」という思いを友達と共にしながら、毎日の授業や学級づくりに取り組んでいることだと思います。

詩人の川崎洋さん（1930-2004）に『ひとつだけ』という詩があります。

三毛ねこ シャムねこ ペルシャねこ 黒ねこ 白ねこ 宿なしねこ
どらねこ やまねこ ぶちねこ 子ねこ
ねこはいっぱいいるけれど うちのねこは一匹しかいない



▼校内掲示(生徒作品)

猫に向けられていた詩人の目が、後半は人に向けられ、詩は次のように結ばれています。

地球には人がいっぱいいるけれど ぼくは一人しかいない
地球には人がいっぱいいるけれど みんな一人しかいない人ばかり
こんにちは 一人しかいない きみ
おはよう 一人しかいない みんな



私も、あなたも、みんなが「一人しかいない」存在です。そして、それぞれの光を放っています。性格も考え方異なる私たちが一つにまとまるのは簡単ではありませんが、確かなことは「様々な個性が集まった方が、より美しく輝くことができる」ということ。そのためには、周りと違う色や光が必要なのです。

これは、全ての人が「一人の人間として大切にされる」ことにもつながり、多様性（性質の異なる要素が存在すること、変化に富むこと）とも深く関係しています。

5月は中間テストや体育祭があります。それぞれの場所で、それぞれの光を発しながら、一人一人が自分らしく輝きたいものです。

●校内掲示板・新聞記事より●

